

農作物技術情報 第9号の要約

平成29年11月30日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
畑作物	<p>小麦：水稻の収穫作業が遅れたため、小麦の播種作業が遅くなったところが多い。播種作業が9月中に行われた圃場と、適期を過ぎてから播種が行われた圃場では生育差が大きい。一部湿害も見られている。県北部や高標高地帯など、根雪期間が長い地域では雪腐病防除の実施を検討する。また、越冬前に排水路の点検等を行うこと。</p>
野菜	<p>寒締めほうれんそう：ハウスを開閉して生育を調節し、寒締め後は葉柄の Brix 糖度 8%以上であることを確認して収穫する。</p> <p>促成アスパラガス：萌芽開始後の温度・かん水管理を適切に行い、収量を確保する。</p> <p>冬春どり葉根菜類：厳寒期の生育促進と凍害防止のため、被覆資材を利用して保温する。病害対策として日中の換気等を実施し、湿度を下げる管理を行う。</p> <p>雪害対策：事前対策として、ビニール等被覆資材の補修やハウスの補強を行う。積雪中は、ハウス側面の除雪を行うとともに、施設内の温度を高めて積雪の自然落下を促進する。</p>
花き	<p>りんどう：施設の点検や補強により雪害対策を十分にとるとともに、保温資材についても点検、修繕を行い、十分な効果が得られるようにする。露地りんどうでは冬期間の凍霜害防止のため土寄せを行う。</p> <p>小ぎく：りんどう同様に施設の雪害対策を十分に行い、小ぎくの挿し穂確保のために適切な温度管理に努める。</p>
果樹	<p>りんご：晩生種は地域によって樹上凍結した恐れもあるため、貯蔵後販売する際は果肉の状態を随時確認し注意して販売する。</p> <p>果樹全般：ネズミ、ニホンジカなどの獣害対策、若樹の凍寒害・雪害対策に努める。</p>
畜産	<p>乳用牛・肉用牛：寒さや換気不良の影響による牛の損耗を予防する。</p> <p>自給飼料・土壌：成分分析を実施し、適切な飼養管理・肥培管理を設計する。粗飼料確保量を把握し、給与計画を考える。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<http://i-agri.net/Index>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となります。